

【会議録】

会 議 名	第3回港区子育てひろば事業（あっぱい港南）運営業務委託事業候補者選考委員会
開 催 日 時	令和7年11月19日（水）午前9時15分から午前10時30分まで
開 催 場 所	芝浦港南地区総合支所103会議室
委 員	（出席者）5名 安梅委員長、岡田委員、田中委員、野上副委員長、石原委員 （欠席者）なし
事 務 局	芝浦港南地区総合支所管理課長 金田
会 議 次 第	1 開会 2 第二次審査 事業者A（プレゼンテーション10分以内、質疑応答25分間程度） 3 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 4 閉会
配 付 資 料	【配付資料】 資料1 港区子育てひろば（あっぱい港南）運営事業候補者選考第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング）採点基準表 資料2 プレゼンテーション用資料（事業者A） 資料3 第2回港区子育てひろばあっぱい港南運営業務委託事業候補者選考委員会会議録 参考資料1 第一次審査（書類審査）結果集計表 参考資料2 第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング）方法について

会議の結果及び主要な発言

(発言者)	<p>1 開会</p> <p>2 第二次審査 事業者A（プレゼンテーション 10 分以内、質疑応答 25 分間程度）</p>
委員長	質問をお願いします。
B委員	港南地域はマンション等も多く、施設のニーズが高いと思いますが、地域への周知について今後どのような取組が必要と考えますか。
事業者A	父親が参加できるイベントを増やすことや、地域に根ざした施設づくりが必要であると考えています。そのため、地域の行事には積極的に参加する方針です。また、同じビル内の他施設とも協力関係を築き、利用者の増加につながる取り組みを進めてまいります。
B委員	マニュアルはかなり分厚いものですが、どのように職員へ周知していますか。また、マニュアルとは別に作成しているアクションカードについても触れてお聞かせください。
事業者A	マニュアルは、ミーティングや園内研修の際に活用しています。分量は多いのですが、経験豊富な職員が多いため、マニュアル内容の理解もスムーズです。アクションカードは、事業継続計画に基づき職員の役割を定めておりますが、その場にいる職員がその時の状況に合わせて臨機応変に落ち着いて対応できるように見やすくしたものとします。
C委員	年間事業計画に記載されておりますが、地域のニーズや各ご家庭の生活環境に合わせた支援を行うにあたり、地域のニーズをどのような形で、どういった方法でこれまで把握してきたのか、あるいは今後把握しようとしているのかお聞かせください。また、家庭の生活環境の支援についても、支援の方法や手立てというのは具体的にどのような形を想定しているか教えていただけますでしょうか。
事業者A	基本は、利用者とのコミュニケーションの中で望まれるサービスや支援についてお伺いすることが多いのですが、巡回でいらっしゃる心理士とも相談しながら、イベントの開催内容を決めています。また、仕事の忙しさから子育てが閉鎖的になってしまったり、悩みの相談先が少ないご家庭がまだまだ多くいらっしゃいますので、育児相談会や離乳食相談会等のイベントを活性化することで、悩みを深掘りして他のイベントに繋げるということをしています。
C委員	家庭の生活環境という点で一例をあげていただきましたが、では、地域のニーズはどのように把握してきたのでしょうか。
事業者A	地域のイベント等に参加するとともに、地域の系列園とも会議を設け、そこで情報収集や地域の需要分析を積極的に行っております。
C委員	利用者が気兼ねなく相談できる関係性を構築するために、注意すべきことや心掛けていることをいくつか挙げていただけますか。
事業者A	一時預かりの際は、受入れと引渡しの際にお子様の様子を詳しくお伝えすることを注意します。ひろばでは、通りがかった際に、元気にこやかに声をかけたり、

	お疲れの様子である利用者にはじっくり話せる時間を作るなど、保護者やお子様の様子をよく見ながら、お声がけします。
D委員	職員の関係性についてお聞きします。ラインワークスでなんでも言い合える環境を作っているとのことですが、実際の状況を教えてください。
事業者A	必ず朝礼の際に、前日の様子を伝え合うなど、普段からコミュニケーションが取れている職員間ですので、ラインワークスや、直接のやり取りなど、様々なツールを活用し、密にコミュニケーションを取っております。
D委員	過去三年ほどの間に、長期に職員が離脱してしまうような事象はありましたか。
事業者A	体調不良等の理由で離脱した例は実際ありましたが、決して風通しが悪いことが原因ではありません。また、相談は施設だけでなく本部にもいただくこともありました。そういった意味では、ラインワークスを活用して相談業務を行うということもあります。
D委員	御社の離職率や定着率は現在どのような状況でしょうか。
事業者A	二年前の合併時に、一時的に離職者が増えましたが、現在は落ち着いてきている状況です。
D委員	定着の工夫としてどのようなことを行っていますか。
事業者A	保育業界全体で言えることですが、離職の一番の理由は人間関係と言われております。一つの狭い空間の中で長時間一緒にいるというところで、人間関係というのは、どの現場でも課題になることだと思います。信頼関係の構築のために、やはりコミュニケーションや、疑問に思うことはすぐ相談できる環境づくりなど、コミュニケーション相談業務に極力取り組んでおります。
D委員	職員の欠勤・欠員の事態の対応について、ある程度職員の余裕がなければ当日の補充は難しいのではないかと考えますが、当日の職員の補充に関しては充足しているのでしょうか。
事業者A	本部に迅速に連絡し、近隣施設から応援を得るなどして対応しています。現在、人手不足で困るという状況はありません。
D委員	ある程度は他施設を助けられる一定の職員配置がされているということでしょうか。
事業者A	そうです。また、協力体制についても、他施設の職員の理解も得て、お互い助け合う風土ができています。
D委員	在宅子育て支援について、日常の相談を受ける体制として年4回の相談会では少ないと感じたのですが、他に日常的な相談を受ける体制というものはあるのか、あるいは相談自体がどの程度の頻度であるのか、お聞かせください。
事業者A	ホームページでも常に相談を受け付けており、気軽にご連絡いただけるよう案内をさせていただきます。また、日常的に利用者から声をかけられることも多く、その都度お悩みを丁寧に伺い、お子様の状況に合わせた対応を行っています。したがって、年4回の相談会に限らず、日常的に開けた相談窓口というものはある中で、じっくり話せる機会を4回設けるという形になります。
E委員	職員配置について、国の配置基準を遵守することになっていますが、提案書を見ると、手薄な曜日があるように感じますが、具体的な配置やローテーションの考え方を教えてください。
事業者A	基本的な職員配置は提案書に記載していますが、職員の中には、土日祝日問わず出勤をしていますので、イベント開催も関係ありますが、手薄にならないよう、パー

	ト職員も含めた配置というのを、シフトを作成する職員と施設長である私で相談しながら配置します。
E 委員	体制が2人の場合、必ずしも2人ではなく、配置の基準や、利用者数に応じて適切な人数を配置できるということでしょうか。
事業者 A	はい、ご認識のとおりです。
E 委員	事業運営について、父親向けのイベントについて先ほどもご説明いただきましたが、父親の育児参加というところで、これまでの取組の事例や、取組の頻度、参加者の状況について教えてください。
事業者 A	以前は平日開催が多かったですが、土日に開催することで、お父様の参加率が高まったと感じていますので、色々な曜日に設定してイベントを開催しています。また、イベントに参加しその場で育児体験や、お悩みをざっくばらんにお話ができる会を開催しております。やはりお母様とは違った視点のお悩みや、お仕事をしながら育児することの大変さを相談できる場がないということで、同じ考えを持っていらっしゃる保護者同士でコミュニケーションが取れる会なので、参加者からは好評です。今後も定期的に開催したいと考えております。
E 委員	参加者から、子供との関わり方に変化があったという意見はありましたか。
事業者 A	はい、父親の育児参加意識が高まっており、以前に比べて、お手伝いというよりも一緒に育児をしたいという意識が高まっていらっしゃることはとても感じます。
E 委員	施設の利用率について、利用率向上のための取組や、参加者が増えたという事例があれば教えてください。
事業者 A	イベント開催により利用者の年齢層や参加曜日が多様化している印象です。その都度、職員間で利用者の動向を振り返り、新しい提案を話し合いました。好評なイベントは実施回数を増やしていきたいと考えております。
A 委員	プロとして自分の強みを一番活かせたと思う事例を教えてください。
事業者 A	私は日頃から人間観察を心掛け、職員の小さな変化や、得意分野を見逃さず、それを業務に取り入れる工夫をしています。勤務する中で、各職員の得意分野がそれぞれで異なると感じ、適切な職員配置やイベント開催に活かすことができていると思っています。
委員長	時間になりましたので質疑を終了します。
	(採点)
	3 第二次審査結果及び事業候補者の選定について
委員長	事務局から集計結果について説明をお願いします。
事務局	事業者A、第一次審査844点、第二次審査396点、合計1,240点です。
委員長	各委員から講評をお願いします。
B 委員	お任せして良い事業者であるという認識です。欠員対応や事故対応、人材育成の体制など、本部の支援体制がしっかりしている点が高く評価できます。施設長候補者の説明に対し、本部職員がさらに補っている、本部のサポート体制もよくできていると感じました。また、保護者への子育て支援については、日頃から悩みを相談できる環境を整備されている点を高く評価しました。満点はつけられませんが、安定した子育て支援をされているなという印象を持ちました。

C委員	私も、この事業者に業務をお任せできることは大前提であると考えております。不安に感じた点につきましては、他の委員の皆様からも質問を受けていたところで、それ以外については4点と評価しました。また、比較対象となる他の事業者が存在しないため、施設長については経験があるとは思われますが、作成された提案書を基に、より具体的な説明をされた方が良かったのではないかと感じております。制限時間や、冒頭から終わりまで説明しなければならないという事情もあり、原稿を読むことはやむを得ないとは思いますが、終始原稿を見ている印象を受けました。私の質問は、施設長がどのような対応ができるのかを確認する意図で行いましたが、具体例を挙げていただいたものの、この提案書も施設長を含めて作成できていないのではないかと感じられる部分が見受けられました。お任せできる事業者であるとは思いますが、施設長を候補者として評価した時に、やや厳しめに3点という評価といたしました。
D委員	私も他の委員の皆様方と同意見です。審査項目①「施設運営の考え方」を満点とした理由は、本部のフォローを最大限評価したものです。こういった場所でのフォローはもちろん、皆さんからご質問のあった職員の配置等に対して、本部としてしっかりバックアップができるのではないかと期待を込めての満点です。施設長は、委員長が質問されてようやく笑いましたが、もう少しこういったところは、子育て施設の長として、頑張ってもらいたかったなと感じました。また、事業内容や安全対策・危機管理の取組等について、法人のこれまでの実績を踏まえ、そのノウハウを生かした具体的で実現性の高い提案がされています。事業展開にあたっての基本理念が明確であり、本事業を運営するのに適切な事業者であると評価しました。
E委員	総合的にも、これまでの経験や運営の実績から安定的、そして今後の発展も見込めるのではないかと感じました。施設運営についても本部のバックアップ体制も期待もできますし、施設長の方も、施設運営の考え方や求められる役割について、これまでの経験を踏まえた説得力ある説明を高く評価しました。同種の事業実績が十分あり、実績や経験を活かした安定的な施設運営が期待できるのではないかと考えています。
A委員	内容については合格点であるといったところです。施設長は最後、良いところを見つけるのが得意とおっしゃっていましたが、多少非論理的なところがあってもカバーしてくれるという期待を持てましたので、この点数としました。
委員長	各委員の講評を受けて、点数の修正や意見はありますか。 (委員一同、なし)
委員長	事業者Aを運営事業候補者として選定することとしますが、よろしいですか。 (委員一同、異議なし)
委員長	事業者Aを運営事業候補者として選定します。事務局から事業者名の発表をお願いします。
事務局 委員長	事業者Aはミアヘルサ株式会社です。 それでは、委員の総意として、ミアヘルサ株式会社を運営事業候補者に選定します。
	4 その他

	5 閉会 (事務局より事務連絡) (安梅委員長より閉会の挨拶)
--	---------------------------------------